



この神社に関しては本文に書いたこと以上のことは分からない。小さな村の神社なのだから、それはそれで仕方ないだろう。それよりも、海亀の甲羅を1年に6回、6年続けて撫でると心身ともに強くなれるというのは、一体どんなことに由来するのだろうか。6×6=36回撫でるとは何かと関係あるのか。あっ、亀山神社だから亀なのか。それにしても山奥なのに海亀である。いやいや、下らぬ詮索はここで止めておこう。

それよりも、今回は、神社のことではなく、この近くにある旧阿東町立亀山小学校校舎を利用してつくられた「阿東文庫」について書いてみたい。実は昨年の古地図ウォークで、神社にお参りした後でそこに立ち寄ったのである。今年で開館16年を迎えるという蔵書15万冊の私設図書館で、蔵書には学術書からマンガまで含まれているとのことである。本は基本的に不要な本を寄贈してもらうことで収集しており、私の大学時代の経済学部長だった安部一成教授の蔵書まで並んでいたのには本当に驚いた。ただ、整理が追いついていないようで、未開封の段ボール箱もあちこちに見られ、とてもデータ管理されているようには思えなかったから本探しは無理と思った。

阿東文庫の趣旨には大いに賛成だが、寄贈者を満足させるためにはもう少し工夫が必要だろう。安部先生が寄贈された蔵書に出会ったこともあって一寸考え込んでしまったのである。先生ほど高尚な蔵書ではないにせよ、我が家にもざっと4,000冊の一般図書と航空関係の雑誌が約3,000冊ある。仮にここに寄贈しても、失礼ながら、正直、さして活用される可能性は低いと思った次第。何か妙案はないものだろうか。(2024.11.24 記)

亀山八幡宮

イラストでたどる石州街道 32



亀山八幡宮は平安時代の万寿3年(1026)に宇佐八幡宮より勧進されたとされており、津和野城主・吉見氏によって再興された。以前触れた津和野城主・吉見隆頼の供養塔といい、国境近くになると勢力範囲の明確な区別が無くなるよう、近隣の恵長寺もその吉見氏によって再興されている。入口の石段の両脇には何とも立派な杉がどっしりとそびえている。境内左手には神楽舞台と思われる建物も見えた。神楽の盛んな島根県はすぐそこだから、これも頷ける。また神殿の右手には海亀の甲羅が奉納されており、一年に6回、6年続けて撫でると心も体も強くなれるとあった。背後の小高い山には亀山八幡城があったとのことである。

文・イラスト 古谷眞之助



